

令和元年度 第1回 公民館運営審議会 会議録

- 1 招集日時 令和元年7月9日(火)午後3時00分から4時15分
- 2 招集場所 中央公民館 2階 会議室2
- 3 出席委員 13名  
岩井定夫 委員長, 荻谷和佳代 副委員長, 方波見論 委員  
森作浩子 委員, 山野稔 委員, 野口さち子 委員  
渡邊豊 委員, 藤代容子 委員, 鈴木真由美 委員  
中島由佳子 委員, 有村敬子 委員, 黒崎雅貴 委員  
玉浦榮子 委員
- 4 欠席委員 1名  
兼清扶司雄 委員
- 5 事務局 9名  
新橋成夫 教育長, 島田弘美 教育部長  
猿田幸助 中央公民館長  
岩井京子 はさき生涯学習センター館長  
佐藤幸司 矢田部公民館長, 原正 矢田部公民館副館長  
藤代悦子  
正木明美 若松公民館, 植木裕子  
岡野章司 中央公民館副館長
- 6 案 件 議案第1号 平成30年度公民館事業報告について  
その他
- 7 開 会 午後3時00分

○委員長

令和元年度, 第一回公民館運営審議会を開会いたします。議題にあります会議

録署名委員に野口委員, 会議録作成職員に中央公民館岡野副館長を指名いたします。

それでは「議案第1号 平成30年度公民館事業報告について」を議題といたします。

事務局から説明願います。

## ○事務局

「報告第1号 平成30年度神栖市公民館事業の報告について」説明いたします。この資料にある概要を説明した後, 各館より具体的な内容について説明させていただきます。

公民館は, 社会教育法の規定を受け, 市民が「集う・学ぶ・結ぶ」と言った場として, 市民のニーズに応えるべく, 各種講座を開設し学習機会を提供するなど, 市民にとって最も身近な学習拠点と言うだけでなく, 交流の場としての役割があります。それは, 市民が気軽に集い, 教養を高める, コミュニティーを高める, そして, 文化活動を通じて, その成果を生かし, 豊かな社会生活を営めるよう事業を展開するものであります。その目的を達成するために, 平成30年度では「4つの重点目標」を掲げ事業に取り組みました。その4つとは, 1つ目は芸術文化の振興と技術習得及び食育・健康の増進を図るための教養ある講座の提供, 2つ目は, 主として青年期の学習意欲向上のための学習機会の提供, 3つ目は世代間を越えての活動の広がりを目指し, 事業を通じて連帯意識を育てる, 4つ目は誰でも気軽に集える公民館, 以上であります。

では資料の説明に移ります。2ページから5ページが, 平成30年度の各公民館の利用状況になります。2ページが中央公民館の利用状況で, 年間開館日数は310日で合計利用者数は39,718人, 次の3ページのはさき生涯学習センターは308日で23,931人, 次の4ページの矢田部公民館は348日で31,156人, 次の5ページの若松公民館は312日で27,690人, 4館での合計利用者数は122,495人でありました。

次に資料6ページからが定期講座等の受講状況であります。この事業は「神栖市立公民館定期講座実施要項と定期講座及び市民カレッジ選定委員会設置要項」に基づき選定した事業であります。平成30年度の各種講座等は通年, 前期, 後期, 短期, 市民カレッジ, 託児付講座, 文化講演会, レクリエーションに種別し, 市民の学習要求に応えるべく, 講座のテーマは趣味, 教養, 食育, 健康増進など, 生活に即したものとし, また各公民館の一般利用状況や昨年までの講座開設の状況を踏まえ講座を提供したものです。

6 ページの 1 全館をご覧ください。平成 30 年度に公民館 4 館で 147 講座を実施しました。募集人数合計 4,946 人に対しまして、受講した人数は 4,208 人であり、受講者全体での男女の割合は男性 1,190 人で約 28%、女性 3,018 人で約 72%、男性の割合が去年より約 2% 増加しておりますが、未だに圧倒的に女性の割合が多い状況でした。公民館の目的は、規定によりますと、生活のために、実際に即する事業を行い、教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興と社会福祉の増進に寄与することにあります。大事なものは「楽しさ」であり、楽しさ無くして、次に繋がらないと思います。これからも公民館事業を展開する中で魅力などを伝えられたらと思います。また、公民館に対する市民ニーズは多種多様であり、講座受講者のアンケートや市民との会話、それから近隣市町村との意見交換など、情報収集に努めていますが、その市民ニーズに対応することが難しくなっています。そこで、引き続き市民ニーズの把握に努めつつ、従来通り各種講座を前期、後期、短期などに分け、より多くの市民が参加できる様々な講座を開設し、選択の機会を増やすことで講座の充実、公民館の充実を図ってまいります。なお、具体的な内容については、各館より説明いたします。

## ○事務局

資料 6 ページ中段が、平成 30 年度の中央公民館の実績をまとめた一覧です。講座等は、63 事業で、223 回、受講者延べ人数は 3,462 人でした。前年度実績では 62 事業 224 回、受講者延べ人数は 4,023 人でしたので、人数は約 14% の減となっております。

資料 8 ページをご覧ください。(1) の前期講座は 9 講座 86 回、延べ人数は 1,336 人でした。出席率では「私のキッチン」が 93%、「子供の造形」が 92% と前年度に引き続き、高い数字を示しております。

次の(2) 後期講座ですが、9 講座 90 回、延べ人数 1,324 人でした。出席率で見ますと「Step Up 英会話」が 90%、30 年度初めて実施した「子どもの裁縫」「子どもの書道」が共に 89%、「大人のビーズコレクション」が 88% となっております。前期後期を通して見てもすべての講座の出席率が 70% 以上の数字を示しております。

次に 9 ページの(3) 短期講座をご覧ください。21 講座 22 回、受講者数は 451 人でした。「豪快！男のどんぶり飯」は応募者が募集人数の半数に満たず、講師のと相談し、内部で検討した上で中止としましたので、数には含めておりません。託児付き講座の「ママのためのリフレッシュヨーガ」と「ZUMBA」、子どもサイエンス講座は人気が高く、応募状況からも好評であると考えております。定期講座を通してみると、健康系や子ども向け講座は根強く人気があり、募集開始当日に

定員に達してしまう状況です。

次に（４）市民カレッジですが、７月１５日の「空のサイエンス」は、クイズや簡単な実験を通じて天気について知識を深め、自分や大切な家族を災害から守る術等を学びました。１１月２３日の「おもてなし講座」は、（株）さくらコミュニケーションズの古川智子先生を講師に招き、日本の老舗で生まれた最高レベルのコミュニケーション「おもてなしの心」について講義していただきました。「おもてなし講座は」実施日が学校行事や連休初日と重なったことにより、小学生の部の受講者が思うように集まらず、事前のリサーチ等が不足していたことは反省すべき点だと考えます。

１０ページに移ります。（５）「はじめのいっぽ」は託児付き短期講座や市民カレッジの際に参加者の方々からお預りした乳幼児を対象とした事業で、３０年度は１７回の実施で託児人数は１０７人でした。

次に（６）レクレーション事業です。恒例となっている「市民将棋大会」と「囲碁将棋フェスティバル」を開催しました。「市民将棋大会」は市内在住在勤の方を対象としておりますが、「囲碁将棋フェスティバル」はあえてそれらの参加資格等を設けず、対局の他にも初心者の子供らに指南するコーナー等、多くの方々に参加して囲碁・将棋を楽しみながら交流を深めていただく催しを目指しました。

２月２４日は神栖市和太鼓連盟の協力により「どっど〜んと集まれ！和太鼓体験会」を開催し、鹿島灘太鼓による和太鼓の実演と、子どもを対象にした和太鼓の実演体験会を実施し、小学生２３人が参加しました。

次に（６）自主グループ支援事業ですが、登録団体は１件で、登録会員数は２０人です。

（７）作品展示事業は、講座作品展示が８件、公民館ミニ企画展が２件、各種団体の展示会４件、国・県・市事業作品展が１件がありました。

中央公民館からは以上です。

## ○事務局

平成３０年度はさき生涯学習センター定期講座等事業実績についてご説明いたします。資料６ページをご覧ください。下段は、はさき生涯学習センターの実績をまとめた一覧です。平成３０年度の講座は４３事業で１９７回、延べ人数は２、７０９人でした。前年度実績では３６事業１７９回、延べ人数は２、５２３人でしたので、人数で比較しますと７％の増となっております。受講者数は、３０年度６５３人で、前年度５５５人から１５％の増となっております。

次に資料 11 ページをご覧ください。(1) 通年講座は、5 月から 2 月まで開設期間で 2 講座 32 回、延べ人数 446 人でした。平均出席率は 78%、平均年齢は 68 歳でした。内訳としましては、陶芸が出席率 87% で平均年齢が 65 歳、社交ダンスは出席率 68% で平均年齢 70 歳でした。その中でも陶芸は、受講者の大変満足度は高く、楽しんで参加できたという声を多くいただきました。

次に前期講座は、5 月から 9 月までの開設期間で「心と身体の健康ヨーガ」から「心がなごむパステルアート」までの 6 講座 58 回、延べ人数 859 人でした。

平均出席率は 75% で平均年齢は 60 歳でした。その中で健康増進向けの講座は、出席率も良く、大変好評をいただきました。また「心がなごむパステルアート」ですが、講座修了後に受講者みなさんの作品を館内に展示しました。

次に(3) 後期講座は 10 月から 2 月までの開設期間で「お仕事帰りのヨーガ」から「かぎ針編みを楽しもう」までの 5 講座 44 回、延べ人数 667 人でした。

平均出席率は 79%、平均年齢は 59 歳でした。この中で「心温まる絵手紙」では 90% と出席率が高く、分かりやすく楽しく参加できたと声をいただきました。

また「心温まる絵手紙」「かぎ針編みを楽しもう」は、講座修了後には受講者のみなさんの作品を館内に展示しました。

次に資料 12 ページをご覧ください。まず(4) 短期講座は 5 月から 2 月までの開設期間で「春・夏の季節を彩るガーデニング」から「新米ママの入学入園準備」までの 25 講座 56 回、延べ人数 699 人でした。平均出席率は 88%、平均年齢は 54 歳でした。この中で新規講座の「新年を彩る生け花飾り」では講師先生の丁寧な指導で分かりやすく受講生に大変評判をいただきました。また「素敵なアロマワックスカップ&サシェ」では、まだ認知度は低いものの、20 代から 70 代の幅広い年齢層で、受講生が楽しんで製作できたという声を沢山いただきました。

次に資料の 13 ページをご覧ください。(5) 託児付き講座は、「はじめのいっぽ」を保育サポーター「たんぽぽ」のご協力をいただき、お預かりした乳幼児を対象とした事業です。受講者数等につきましては、ご覧のとおりでございます。

次に(6) レクリエーション事業の「市民囲碁大会」は、波崎囲碁クラブ会員にご協力をいただき、開催しました。参加者数等に関しましては、ご覧のとおりでございます。

次に(7) 自主グループ支援事業につきましては、平成 29 年度は 9 団体ありましたが、9 団体は自主グループの最長認定期間の 3 年が終了し、平成 30 年度団体数は 0 でございます。なお、現在 9 団体うち 8 団体は、一般団体として、はさき生涯学習センターで活動しております。また今後も、公民館自主グループ認

定制度の周知を行っていきます。

次に作品展示事業につきましては、公民館講座作品展示 4 講座と各種団体の展覧会の 2 団体です。

はさき生涯学習センターからは以上です。

## ○事務局

矢田部公民館定期講座事業実績について説明します。資料、14～15ページになります。30年度、矢田部公民館では（1）通年講座として1講座を実施しました。「金具を使ったビーズアクセサリ講座」は、講座に慣れた先生で受講生の出席率も良く、1年を通した運営は滞りなく終了いたしました。

途中体調を崩し休みが続いた受講生に対してもフォローをして頂き、作品を完成させて頂きました。また、複雑な作成方法でも図入りの説明書等を配布して頂き、スムーズに作成でき、満足度も大変高かった講座となりました。

（2）前期講座として3講座を実施いたしました。3講座とも健康系で実施し、申込時、人気が高い講座でしたが出席率が人気講座にしては75%台と振るわず、要因としては、「リラクソヨガ」はマンネリなのではないか、また「ベリーダンス」は2年目で、実施時期、講座内容等を検討し実施しましたが、内容が難しいことや、動きに恥ずかしいなどの抵抗を持つ人が多かったのではないかと思います。「リンパセラピー」は29年度1回での実施、30年度は8回で実施し、受講生から満足度が高い、今後も参加したいというアンケート結果を頂きました。

（3）後期講座は3講座の計画をし、2講座の実施となりました。趣味教養系のパンフラワー講座については、募集人員が規定数に達しなかったため実施し出来ませんでした。「子ども絵画講座」、「骨盤調整ストレッチ」の2講座については、開設時期が後期のため季節的な要因で出席率が下がる傾向にありましたが解決方法が見つけられない状況です。

（4）短期講座は語学の講座1、趣味教養の講座7、親子・子供の講座2の全10講座で計画しましたが、後期講座の「パンフラワー講座」が中止になったため託児付の「カルトナージュ講座」を計画し、全11講座を実施いたしました。

語学講座の「英会話講座」は、受講生のモチベーションを上げるため、練習用音声を用意してくれたり、学習の取り組み方について説明いただいたりと、尽力頂きました。また、募集時に中学1～2年生程度と具体的に募集表示したが、レベルの高めの方が混じっており、レベル差の均衡を図ることに課題が残りました。

趣味、教養系の講座については、前年に人気のあった「UVレジンクラフト講

座」などは、回数を減らすなど参加しやすいように検討したが、ターゲットとしていた若い世代の参加者が少なく、告知方法などが課題となりました。「かわいいお菓子，練りきり編」は和菓子作り，「かわいいお菓子，アイシングクッキー編」は洋菓子作り，「菓膳料理講座」は本格的な食材を使用して実施し，大変好評でありました。「怒りと上手に付き合おう，アンガーマネージメント講座」は，子育て世代の方の申し込みが大変多く，子どもと向き合う中で苦心している様子がかがえました。怒りの付き合い方を学ぶだけでなく，同じ悩みを共有できたことに満足する受講生もおり，学習要素以外にも収穫があった様でした。「シニアスマホ安全教室」については，今までに無い講座だったため好評でした。1回，2時間の講座だったためシニア層には，盛りだくさんの講座となってしまう，もっとじっくりと取り組みたいようで，年齢層を意識した講座作りも大変だと感じました。親子，子ども系の講座では，作品の作成作業を保護者の方にお願ひする場面もあつたり，先生にお願ひしたりとか難しい部分もありましたが，親子のコミュニケーションの提供などについて評価する声があり，完成品についても仕上がりに満足してました。

託児付講座については，30年度初めての試みで，視聴覚室にジョイントマットを敷き，短期講座No.2「夏のポーセラーツ」，No.5「かわいいお菓子クッキー編」，No.11「カルトナーージュ講座」の3講座で実施しました。利用者は3講座で7人でしたが受講生から好評でしたので今後も託児付講座を増やせるよう検討したいと思います。講座内容は想像以上に完成度が高いものができ，受講生も大変満足してました。

(6) 文化講演会ですが，30年度は，「日本一受けたい日本語授業」と題して，杏林大学教授で日本語研究の第一人者，金田一秀穂先生の講演会，「忍たま乱太郎ファミリーコンサート」，笑い与健康というテーマで，「林家正蔵の落語講演」を実施いたしました。目標集客率70%で，30年度集客率は80%でありました。

(7) 作品展示事業はロビーにおいて，防犯ポスター展示（はさき自警団），芸術祭移動展，原爆展，秋季全国火災予防運動ポスター展示（消防署），生きがい講座作品展示を実施しました。私からは以上です。

## ○事務局

平成30年度 若松公民館定期講座等事業実績についてご説明いたします。資料の16ページをご覧ください。実施講座は16事業，募集人数は285人，受講者数は246人でした。前年度の実績は講座数は15事業，募集人数は265人，受講者数は228人でしたので，受講者数で比較いたしますと約7%の微増となります。

す。

(1) 前期 2 講座についてご説明いたします。「健康ヨーガ」は例年人気がある講座ですが、回を追うごとに欠席者が多くなり、出席率は 60% でした。この要因といたしましては、30 年度の酷暑による体育室の厳しい暑さが原因の 1 つと考えられます。「ゆったりエアロビクス」は初心者向けの講座で、土曜日の午前中に開講し、出席率は 71% でした。暑さの中でも欠席が少なく、楽しく体を動かせたという感想が多かったのは、40 代の受講者が多かったためと考えられます。

(2) 後期 3 講座についてご説明いたします。「健康整体」については、仕事をしている方が参加しやすいよう、平日の夜間に開講し、出席率は 79% でした。例年人気がある講座で、継続の要望が多く、30 年度も定員を超える申込みがありました。講座終了後は自主グループとして活動しています。「体幹エクササイズ」は経験者向けの講座で、土曜日の昼に開講し、40・50・60 代各 5 名ずつの参加をいただき、出席率は 68% でした。音楽に合わせて楽しく体幹トレーニングができたので、今後も続けたいという声があった一方、途中から欠席になってしまう方もいました。「はじめてのわら細工」は申込人数が少なく、開講が危ぶまれた講座でしたが、少人数で学べたことで内容が濃いものとなり、出席率は 84% で、終了後のアンケートで全員から満足との回答をいただきました。また、完成した作品をロビーに展示したことで、「次回はいつやるのか」という問い合わせが多数寄せられました。

(3) 短期講座についてご説明いたします。「お父さんと巻き寿司を作ろう！」ですが、15 組の募集に対して、5 組の申し込みとなり、中止となりました。「座禅」は前年度から実施していますが、毎年人気が高く、男性が参加しやすいよう土曜日の夜間に開講しました。5 分の休憩をはさんで 20 分ずつ 2 回の座禅を行うという内容で、静かなひとときが過ごせたと大変好評で、1 回のみ講座なのが残念だという声を多くいただきました。「ソープカービング」は前年度から継続して受講する方も多く、出席率は 85% でした。講師の親切な指導で楽しく作品が作れたという感想が多く寄せられました。「季節の寄せ植えガーデニング」は、20 名募集のところ 13 名の申込みで、ガーデニングの人気が薄れてしまったのかと考えさせられました。出席率は 96% と高く、終了後のアンケート結果は満足が 67%、やや満足が 25%、普通が 8% でした。「親子でパソコンで絵を描こう」は小学生の親子を対象に、夏休み期間に開講しましたが、参加者集めに苦労しました。少人数だったことで、質問がしやすく、わからない箇所を丁寧に説明してもらえたことで、子供たちは楽しく学べたようです。「写経」は初めての試みでしたが、多くの方に興味を持っていただき、キャンセル待ちがでるほどでした。日曜日の昼に開講し、座禅と同様男性からの申込みをいただきま



した。集中し有意義な時間が持てたと好評で、夜間の開催や、来年度の継続希望のご意見を多数いただきました。「男のそばうち」は大晦日に向けて、当初 男性限定で募集しましたが、夫婦で参加したい等女性からの問い合わせもいただき、男性7名、女性3名で開講しました。出席率は100%で、講師の教え方・テキストともとてもわかりやすいと好評でした。「手作りハーバリウム」は定員を大きく上回る申込みがあり、講師のご厚意により最大限の受け入れをしていただいて25名で開講いたしました。申込受付の前に見本を見せながら説明をしたことが、人気につながったと考えられます。「手作りプラバンアクセサリー」は人気がある講師の講座で、20代から60代まで幅広い年代の方に受講していただきました。出席率は92%で、完成した作品をロビーに展示をしたことで、受講者のやる気が増したようでした。「恵方巻き作り」はお父さんと巻き寿司をつくろう講座の代替えとして、節分に向けて企画しました。大人13名子供6名託児2名の申込みをいただき、親子で協力して花や人の顔の巻き寿司を作り、楽しい時間を過ごしていただきました。「クッキング英会話」は軽食を作りながら英会話を楽しむという内容で募集した講座でしたが、調理中の英会話部分が少ないという、不満の声をいただき、出席率は65%でした。「親子でバレンタインクッキング」は申込み時から人気が高い講座でしたが、インフルエンザの流行により、出席率は82%にとどまりました。参加者からは、今後も親子で楽しく参加できる講座を企画してほしいという要望をいただきました。(4) 託児付講座事業につきましては、乳幼児を対象とした「はじめのいっぽ」を、保育サポーターたんぽぽのご協力をいただき、「恵方巻き作り」と「親子でバレンタインクッキング」の2講座を託児付講座として実施いたしました。

(5) 自主グループ支援事業につきましては、平成30年度の登録団体は、「健康整体」と「太極拳」の2団体で 登録会員数は28名でした。

(6) 作品展示事業につきましては、10月10日から14日までうずも美術協会による「林の中の美術展」を開催していただき、絵画・陶芸・立体・書道・写真等を展示しました。若松公民館からは以上です。

## ○委員長

説明が終了いたしましたのでこれより質疑に移ります。質問は挙手をもって受け付けます。資料は、事前に見ていただいておりますが、なにか質問はございますか。

## ○委員

矢田部公民館の「子ども絵画教室」への質問ですが、説明を聞くと大変良い講座と感

じるので、出席率が芳しくないのは残念に思います。よろしければ講座の開催時期、講師、全10回の構成内容等を教えて下さい。

#### ○事務局

「子ども絵画教室」ですが、月2回程度、土曜日の午後1時から3時の日程で実施しており、講師は文化協会の美術連盟に所蔵している3名の方に依頼しております。全10回の構成で小学生を対象に本格的な絵画に触れてもらうことが狙いですが、初心者でも入りやすいように最初は簡単な果物等の静物の描写から始め、完成した作品は矢田部公民館内ロビーに展示し、本人の目で上達具合を確認してもらったり、親御さんに褒められたりすることで学習意欲の向上に繋げていくよう進めてまいります。当講座は30年度でまだ2回目ですが、小学生が本格的な絵画を学べる機会は少なく、2回目3度目の受講を希望するお子さんや親御さんも多くいらっしゃいますので、今後人気講座として定着していくものと考えております。

#### ○委員

ただ今の質問について、講師を勤めている私から補足させていただきます。30年度の出席率が43%と低かったのは、市内小学校でインフルエンザ流行による学級閉鎖があったのも原因の一つであります。「子ども絵画教室」は今年度も引き続き開催予定ですが、神栖市は毎年インフルエンザによって学級閉鎖になるケースが多いので、流行が最小限であればと願っております。

#### ○委員

出席率が低くても、興味を持った親御さんが多いとか、受講したお子さんに好評であるという実態があるのであれば、今後継続することにより受講者もさらに増えていく可能性が高いと思われますので、よろしく申し上げます。

#### ○委員

もう少し補足させていただきますと、矢田部公民館の「子ども絵画教室」は実施している部屋が狭く、15人しか受け入れることが出来ないのが実状です。人気講座で受講希望者は多いのですが、先着順となっておりますのでその点は残念に思います。

## ○委員

中央公民館は講座数は充実してるように見えますが、近年は目新しいものが無く少々マンネリ化しているように感じます。他の3館は新しい講座をバランス良く取り入れているようですので、中央でも他館を参考にするなどして積極的に新しい講座を取り入れたり、入替えていく事が新たな顧客を獲得する上でも必要と思われませんが如何ですか。

## ○事務局

中央公民館では4月の人事異動により講座担当者も変わり、他館の動向も参考にしながら来年度以降の講座について検討してまいります。

## ○委員

全館についてですが、一時期多く見られた健康系の講座ですが現在は減少傾向にあるように感じられます。健康ブーム去った所為なのか、新鮮味がなくなって受講者から飽きられたのが原因なのか、公民館ではその辺りはどう感じていますか。

## ○事務局

中央公民館の健康系講座ですが、ZUMBAとヨガは受付状況や出席率からみて概ね好評であると考えておりますが、それと比較すると健康整体は伸び悩みを感じており、特に健康整体は今年度に入って受講者数、出席率共に芳しくないのが現状です。健康整体は今年度まで夜間講座として開催しておりますが、来年度は時間帯、形態を変えての実施を検討しているところであります。

## ○事務局

矢田部公民館ですが、先ほどの事業実績の説明でも触れましたが、健康系で募集の際は人気が高くても、実際開講してみると出席率が今一つよろしくない講座もあります。「ベリーダンス」はその一つでこちらも開催日や開催日数等を講師と相談の上実施しているのですが、それでも中々厳しい状況でありますので、今後もアンケート結果等を精査しながら検討してまいります。

## ○委員

中央公民館の「子どもの造形講座」は大変人気種目で喜ばしい限りで、毎年受講者が「全国こども陶芸展 in かさま」へ挑戦・出品され優秀な賞を受賞され大変嬉しく思います。これは講師の方、公民館の方の力強い支援・協力・支えがあってこそその賜物だと思います。教育長も大変すばらしい事だと感心されている所でありまして、是非この伝統を継続してほしいものです。

またこの会議においてせめて委員の皆様には受賞結果を実績として公表すべきではないかと思えます。よって近年5年間の受賞記録を提示していただきたいと思えます。さらに子どもの受賞に限らず講座等に関連するものがあれば、審議会での披露は必要ではないかと思えますが如何でしょうか。

## ○事務局

ただ今の質問について、資料として「全国子ども陶芸展 in かさま」過去5年間の受賞歴を提出いたしますので、各自でご査収下さい。

「全国子ども陶芸展 in かさま」への作品の出品は、中央公民館「子どもの造形」講座の慣例となっており、過去には文部科学大臣賞等多くのかがやかしい受賞歴があり、ひとえに講師各位の熱心なご指導の賜物であると存じ、あらためて厚く御礼申し上げる次第です。

例年ですと同展の授賞者を受賞式への送迎と引率を公民館で行なってまいりましたが、国体開催に伴い市バスの確保が困難となり、今年度は会場への送迎は保護者にお任せすることにし、またこれを機に、例年中央公民館で取りまとめていた作品の出展について、今年度からは受講者と保護者に手続きしていただく旨を、講師各位に申し伝えました。

この理由の一つは、「子どもの造形」講座における講師の負担が、他の講座と比較して大きいことです。

「子どもの造形」は事前準備が他の講座より多く、また専門知識が必要なため、講師自らが粘土や部屋の準備をし、終了後の片付けも全て行ってくれている上、講座のない日も陶芸窯の様子を見に来ていただいております。

これに加えて「子ども陶芸展」の作品出展についての子ども達への指導やアドバイス、出展の意思の取りまとめ、作品の梱包・配送の準備、受賞した際の笠間市で開催される授賞式までの引率、市長・教育長への表敬訪問の際の付き添い等、講座時間外にも関わらず、同行していただいております。

これら講師のご厚意に当館としても有り難く思うとともに、常々心苦しく感じ

ていたことをご理解いただければ幸いです。

もう一つの理由といたしまして、当館としては公民館講座は社会教育に触れるあくまできっかけづくりと位置づけており、初心者にこそ受講してほしいと考えております。特に子ども向け定期講座は、初めて陶芸や絵画などに触れる子ども達が、基礎から学び、10回かけて新しい世界に親しみを感じてくれるようになることを目標に企画しています。しかし近年保護者から「子どもの造形」講座に対し、「初回から「全国子ども陶芸展」への出展作品を作ると提示され、大変驚いた」「最初は基礎を教えて欲しかった」という意見が挙がっておりました。

これは同展の募集時期が年々早まってきていることに対応したためですが、当館としても本来の講座趣旨から外れつつあるのではないかと疑問に感じていたところでありました。

他にも「材料費のほかに送料まで負担しなければならないなんて聞いていない」、また送料の合計を子どもの人数で平均して一律で負担いただいていることから「うちの子の作品は小さいのにこんなに送料を払わなければならないのは不公平だ」等の保護者からの苦情が当館に寄せられました。この件は当館から保護者に十分に説明した上で出品の意思確認を行ってはおりましたが、保護者自身が出展の準備に関わっていないため、内容を十分に理解していないことに起因するものと当館では考えております。

また、前述の市長や教育長への表敬訪問ですが、受賞した子ども達に学校を早退させてまで出席させており、こちらも受講者や保護者の負担になってはいないかとの危惧もあります。

なお、他の講座については、当館が子ども向け芸術展を関知したとしても、案内するにとどめており、陶芸展への出展は確かに子ども達の向上心を育てていることは事実ではありますが、これらの理由から「子どもの造形」も他の講座と同等に扱うことにいたしました次第です。

とはいえ、当館といたしましても、同陶芸展への出展を妨げるつもりは毛頭なく、これからも受講者には積極的に周知していくつもりでおります。ただし、今後は受講者とその保護者の労力と判断のもとに、これを行っていただくようお願いして参りたいと考えておりますのでご理解願います。

## ○委員

「子どもの造形」の講師をしてしておりますが、開講時に「全国こども陶芸展の概要と出品については受講者と保護者に説明しておりますが、講座内で出品する作品を作るとなると陶芸展々切の都合上、開講してすぐ作品作りに取りかからなけ

ればなりませんでした。例年であればこれらは中央公民館の理解と協力を得た上で行なってもらいましたが、今年度から公民館は協力しないと明言されたので、1回目と2回目は課題を定めず、あえて自由に作品を作る中で陶芸展に参加を希望するお子さんには出品用の作品を作ってもらい、3回目からは全員に造形の基礎から子ども達一人ひとりに指導をしております。今回保護者の方からそのような意見が出ていると公民館から聞いて、子ども達には細やかな指導を行なっているつもりでありましたが、保護者の中にはご理解頂けなかった方もいらしたようで大変残念に思います。10年間講師を勤めさせていただいておりますが、このようなお話があったのは初めてですので、講師一同大変戸惑っているところです。今年度陶芸展に個人で出品された方は大変少なかったのですが、講師からは出品するに当たり出来る限りアドバイスをさせていただき、うち受賞している方も何名かいらっしゃいます。送料の件をもう少し補足させていただくと、作品を公民館から陶芸展に送る際は講師が極力送料が係らないように無駄なスペースが無いよう梱包するのですが、陶芸展から作品を返却してくる際の梱包はそこまで気を遣ってもらえません。去年はそれが特に酷くて、作品の大きさに関係なく小さい作品であっても大きな箱で一点ずつ梱包されて返送された所為で送料が嵩み、往復の送料の個人負担は一昨年一人1,000円前後だったのが去年は1,500円位に膨らんでしまいました。また送料が自己負担になることは事前に保護者には説明しておりますが、その場になかった、あるいは講師の話聞いていなかったことによる誤解や行き違いが原因とも思われますので、その点はもっと丁寧に説明するべきだったかと反省点ではあります。

## ○委員

陶芸展について私も知っている限りお話をさせていただきますが、中央公民館の子ども陶芸展への出展は17年間続いております。近年作品の輸送は宅配便等を利用しておりますが、当初は公民館職員が直接陶芸展まで作品を届けていたこともあったと聞いておりますので、それに比べて現在の公民館の負担がさほど大きいとは思えないのですが、それが負担だと言われればそうかもしれないし、但し何もかもを公民館で行なうことが負担だと言う考えは宜しくないかと思えます。講座に参加した子ども達が陶芸展に出品して受賞することにより学習意欲が沸くことは大変喜ばしいと思うので、今後も継続すべきではないでしょうか。

## ○委員長

この件については今一度公民館と保護者の間で意見等を調整した上で進めていっては如何でしょうか。

## ○委員

公民館講座の受講申し込みについてですが、子ども講座の受講受付は概ね記事が掲載された広報発行日の週末の土曜日となっておりますが、前期の子ども講座の申し込み日は小学校の授業参観日と重なってしまい、保護者から多くの問い合わせがあったと聞いております。学校や教育委員会と調整し、事前に行事等の予定を把握することが必要と思われるので、検討をお願いします。

## ○事務局

今年度、前期講座の申込開始日と授業参観が同日となってしまう、多忙になられた親御さん、又は受講する機会を逃してしまった方々に対し、誠に申し訳なく思っております。今後は各学校に申込日の行事予定を確認し、全校的な行事と重ならないよう努めてまいります。

## ○委員

公民館講座の申し込み方法は現在は直接申し込みですが、インターネット等それ以外の申し込み方法は検討されないのでしょうか。市のホームページに講座の募集記事は掲載されていますが、申込用紙やチラシ、講座をPRする画像等も見当たらない、講座の内容や申し込み方法が分かり辛く結果的に電話で直接問い合わせなければならない等、新規申込者や受講者を獲得しづらい環境になっているように思いますが、その辺は如何お考えでしょうか。

## ○事務局

公民館講座の受講申し込みは公民館で直接申し込みのみとなっており、募集については広報かみす、ホームページ、メールマガジン等で周知しております。受講者に対するアンケートで講座の情報をどこから取得しているかの質問で広報かみすとの回答が多数を占めておりますので、現時点では広報かみすでの周知に力を入れているのが現状であります。但し様々なご意見も寄せられておりますので、今後の状況を注視、研究した上で検討してまいります。

## ○委員

若松公民館の説明の中で（２）後期講座の「はじめてのわら細工」は大変好評でまたやってもらいたいとの声が多く寄せられたとのことですが、これらの意見がいつ出たのかはわかりませんが、この報告を発表している現時点ではすでに今年度の講座は既に決まっていますので、仮に「わら細工」が今年度計画に入っていないければ、これらの意見が反映されるのは更に次年度に先延ばしになってしまいます。制度上難しい面もあるかもしれませんが、前期講座は無理としても、せめて後期講座に前年度好評だった講座を特例的に盛り込むといったフレキシブルな対応がより市民ニーズに応えることが出来るのではないのでしょうか。せっかくの芽生えた学習意欲を制度上の制限で失ってしまうのは大変もったいないと思いましたので、一言述べさせていただきます。

#### ○事務局

ただ今ご指摘のあった「はじめてのわら細工」ですが、受講者が少人数だったことにより協力して作った宝船の出来映えが見事で館内に展示した際にはそれを見た来館者から「自分もやってみたい」との声を多くいただきましたが、実際は募集の際に受講者が集まらず、多少苦勞したという実状もあります。今年度はタイトルを「華やかしめ飾り」に改めたので分かりづらいのですが、同じく藁を使ったしめ縄飾りに限定して新しい講師を迎えて短期講座して予定しており、去年の宝船のような作品は回を重ねる必要があるのでは今回は導入的なものと考えております。講座内容へのフレキシブルな対応との講座を計画する立場としては大変有り難いご意見をいただき、感謝申し上げる次第です。

#### ○委員

矢田部公民館の文化講演会についていずれの事業も定員約 800 人に対して約 600 人程度と思いの外参加人数が少ないのですが、当日の整理券が手に入らず参加できなかった方も多くいらっしゃると思いますので、次年度に配布する整理券の枚数の等はどのようにお考えなのかお聞かせ下さい。

#### ○事務局

文化講演会の整理券は毎回約 810 人のキャパシティに対して 850 枚程度を配布しておりますが、やはり当日になると配布した数よりも若干減ってしまう傾向があり、事前に数を把握することは困難と言えます。万が一にも座れない方が出ないようにギリギリの枚数で配布しておりますので何卒ご理解下さい。なお整理券をお持ちでない方も当日の空席があれば随時対応させていただきます



ので、よろしくお願ひいたします。

○委員長

質疑が無いようですので、「報告第1号 平成30年度公民館事業の報告について」は終結いたしますが、ご異議ございませんか。

(全員意義なし)

○委員長

異議なしと認め、報告済みとします。

○委員長

次に、その他に移ります。事務局より、何かありませんか。

○委員長

無いようですので、以上で令和元年度第1回公民館運営審議会を閉会いたします。

長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。お疲れ様でした。

平成31年 月 日 委員長 岩井 定夫 ⑩

会議録署名委員 野口 さち子 ⑩